

未来ノート

-202Xの君へ-

サッカー

おお さこ けい すけ
大迫敬介

大舞台を楽しむ

ただ一度の反対

目標は目の前に

プラス1の努力

実体験から 説き続けた父

19歳と324日。GKとしては、歴代最年少での日本代表デビューだった。昨年6月の南米選手権チリ戦、サッカーJ1広島に所属する大迫敬介(20)は日本のゴールを守った。

「いつも通りで、そんなに緊張はしなかったですね。わくわくしました」。大口をたたくタイプではない。率直な感想だろう。肝がすわっている。そこ

には父の教えが生きている。「緊張を楽しめ」。よく耳にする言葉でもあるが、「親に言われた中で、一番印象に残っている」。

父・哲郎さん(51)は、大迫が小学5年生の頃にサッカーで鹿児島県選抜に選ばれた時、「もう一つ上にいくために大事になる」と実体験とともに伝えたから説得力があった。

鹿児島実高で卓球部に所

属し、シングルス、ダブルス、団体と県3冠に輝き、全国大会にも出場した実績を持つ。県決勝では、広い

体育館に卓球台はたった一つ。全ての視線が降り注ぐ。「見られることを力に変えられるように。本当に集中すると、すごい世界に入っていくぞ」と語りかけ、「優勝を決めたスマッシュなんてクルクルって目の前で止まるんだ」と、はつきり残る記憶をもとに説いてみせた。

合わせて大迫に課したこ

とがある。「緊張に慣れるためには、みんなの前で手を挙げて発表しなさい」。出身地である出水市で開かれた1千人規模のイベントにも積極的に参加させた。英語でのスピーチにも挑んだ大迫は「だんだんと楽しめるようになってきた」と振り返る。

南米選手権から帰国した大迫は疲労もあり、広島で一時先発落ちした。復帰戦ではミスを恐れて、消極的なプレーに逃げた。試合直後、哲郎さんから珍しく電話がかかってきた。「らしくないぞ。前に出る」。厳しい指摘を受けて吹っ切れた。「救いになりましたね。父はサッカーでは素人ですけど、素直な目線がグツとくるものがある」

小学5年生の頃の
大迫敬介(家族提供)



南米選手権のチリ戦で日本代表にデビューしたGK大迫敬介(右)＝2019年6月、ブラジル・サンパウロ

(吉田純哉)

◆「未来ノート」スクラップブックは、全国のASA(朝日新聞販売所)でお配りしています。インターネットの特設ページではイベントやスクラップブックについて詳しく紹介しています。「未来ノート 朝日新聞」で検索してください。